

情報通信審議会 情報通信技術分科会
放送システム委員会（第63回） 議事概要（案）

1 日時

平成30年6月22日（金） 15:30～16:45

2 場所

中央合同庁舎2号館 地下2階 講堂

3 議題

- (1) 「ケーブルテレビにおけるIP放送等に関する技術的条件」の検討状況について
- (2) 「衛星放送用受信設備に関する技術的条件」のうち、光配信システムの検討状況について
- (3) 「23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」に関する検討開始について
- (4) 「超高精細度テレビジョン放送のための1.2GHz帯及び2.3GHz帯を使用する放送事業用無線局（FPU）の技術的条件」に関する検討開始について
- (5) その他

4 出席者（順不同、敬称略）

【構成員】伊丹主査（東京理科大学）、村山委員（津田塾大学）、井家上専門委員（明治大学）、大矢専門委員（日本CATV技術協会）、甲藤専門委員（早稲田大学）、関根専門委員（明治大学）、野田専門委員（スターキャット・ケーブルネットワーク）、松井専門委員（電波産業会）

【オブザーバ】居相様（日本放送協会 放送技術研究所）、後藤主任（情報通信研究機構）、豊嶋様（情報通信研究機構）

【事務局】情報流通行政局 放送技術課、地域放送推進室

5 配付資料

資料63-1 放送システム委員会（第62回）議事概要（案）

資料63-2 IP放送作業班における検討状況について

資料63-3 IP放送作業班における検討状況について（参考資料）

資料63-4 光配信システムの検討状況について

資料63-5 「23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討開始について

資料63-6 「23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討の進め方（案）

資料63-7 「超高精細度テレビジョン放送のための1.2GHz帯及び2.3GHz帯を使用する放送事業用無線局（FPU）の技術的条件」に関する検討開始について

資料63-8 「超高精細度テレビジョン放送のための1.2GHz帯及び2.3GHz帯を使用する放送事業用無線局（FPU）の技術的条件」に関する検討の進め方（案）

参考資料63-1 4K・8K時代に向けたケーブルテレビの映像配信の在り方に関する研究会

報告書（概要）

参考資料63-2 4K・8K時代に向けたケーブルテレビの映像配信の在り方に関する研究会
報告書

参考資料63-3 情報通信審議会令等

6 議事概要

（１）前回議事概要の確認について

資料63-1の前回議事概要（案）が承認された

（２）「ケーブルテレビにおけるIP放送等に関する技術的条件」の検討状況について

IP放送作業班主任の甲藤専門委員より資料63-2及び資料63-3に基づき、「ケーブルテレビにおけるIP放送等に関する技術的条件」の検討状況に関して報告があり、主に以下の質疑応答が行われた。

- IPといってもケーブルテレビ会社のクローズドなネットワークであり、オープンネットワークとは切り離されたものなのか。（村山委員）
- 家庭内の最後には混在する可能性もあるが、ネットワーク上では混在しない。（甲藤専門委員）
- 災害情報についてはケーブルテレビ事業者が配信するというより放送元から直接伝達されるものなのか。（村山委員）
- 災害情報については再放送を行うものと、ケーブルテレビ事業者が自主放送を行うものの二種類あると認識しているが、技術的には災害情報か否かを問わず、伝送品質が確保できるよう措置することとしている。（甲藤専門委員）
- IPネットワーク設備は必ずしもケーブルテレビ事業者が持っている設備ではなく、電気通信事業者の設備を利用することもあるという認識でよいか。（野田専門委員）
- 然り。なお、優先制御を行うことにより放送の品質を確保することとしている。（甲藤専門委員）
- IP放送は送信者側でネットワークの信号の品質を確保することを意識しているということでよいか。（野田専門委員）
- 然り。（甲藤専門委員）

（３）「衛星放送用受信設備に関する技術的条件」のうち、光配信システムの検討状況について

衛星放送用受信設備作業班の後藤主任より資料63-4及び資料63-5に基づき、「衛星放送用受信設備に関する技術的条件」のうち光配信システムの検討状況に関して報告があり、主に以下の質疑応答が行われた。

- 850nmのコスト面について、既存1550nmの波長のものよりも価格は安いのか。また、1550nmと比較して信号の減衰も大きいと思う。施工面では加工が容易とのことで、今後普及してくると良いと思う。（野田専門委員）
- コストについて、850nmシステムは1550nmシステムと比較して、安価で経済面で優れていると認識している。（後藤主任）

- コストについて、850nmの既存製品の価格が下がってきており、低廉化が可能な目処がたったため、今回はこの波長を選択している。また、減衰が大きいとのご指摘があった。実験において、ARIB—STD B63で規定されている所要CN12.6dBを満足できており、十分な信号レベルを確保できることが確認された。引き続き減衰を少なくしていく取組をしながら、実用化に向けた検討がなされていくことと期待している。(事務局)
- 今回の宅内配信システムの伝送距離はどうか。(井家上専門委員)
- 今回検討している850nmシステムは一般的に約200mの伝送ができる。そのため、大規模集合住宅では850nmシステムだけで構築するのは現実的ではなく、1550nmシステムと組み合わせて構築できればシステム全体のコスト低減にもつながる。戸建て・小規模集合住宅に関しては、200mの伝送ができれば、システム構築が可能と考えており、将来性が期待されている。(事務局)
- 1550nmのデバイスが世の中にたくさん出てきているが、850nmで検討している理由はコスト面のみを考えてのことか。1550nmであれば光増幅器等で信号を伝送する方法もあると思うが、どのようなシステムになっているか。(豊嶋様)
- 850nmで検討しているのは主にコスト面からになる。今回のシステムは一度電気信号に変換して(増幅・分配等)検討している箇所もあるが、技術的に光の波長変換は可能であり、850nmシステムは実現できると考えている。(後藤主任)

(4)「23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」に関する検討開始について

事務局より資料63-5及び資料63-6に基づき、「23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件」の検討開始に関して報告があった。その後、「23GHz帯無線伝送システム作業班」の設置について承認がなされ、作業班主任として野田専門委員が指名された。

(5)「超高精細度テレビジョン放送のための1.2GHz帯及び2.3GHz帯を使用する放送事業用無線局(FPU)の技術的条件」に関する検討開始について

事務局より資料63-7及び資料63-8に基づき、「超高精細度テレビジョン放送のための1.2GHz帯及び2.3GHz帯を使用する放送事業用無線局(FPU)の技術的条件」の検討開始に関して報告があり、主に以下の質疑応答が行われた。

- 1.2GHz帯と2.3GHz帯で状況は違うかもしれないが、将来的に1.2/2.3GHz帯FPUは増える見込みなのか。(井家上専門委員)
- 1.2GHz帯と2.3GHz帯は、ロードレース中継等では同時に複数のチャネルを使用することもあり、また、無線局としても両周波数帯に対応しているものも多いことから、どちらかに偏った使い方をしているものではない。また、ロードレース中継等の用途が急増するものでもないため、台数も大きく増えるものではないと認識している。(事務局)

質疑応答の後、「1.2/2.3GHz帯FPU高度化作業班」の設置について承認がなされ、作業班主任として高田専門委員が指名された。

(6) その他について

事務局より次回の委員会は7月31日に開催を予定している旨、連絡を行った。

以上